

## 経済的貢献



日産は自らの持続的な利益ある成長によって、社会全体の経済的発展に貢献したいと考えています。そのために、グローバル自動車市場においてトップレベルの業績を確保し、高い収益基盤を築くことを目指しています。また、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに日産の戦略やビジョン、経営計画に対する具体的な実行方法を迅速かつ正確に伝えることを重視しています。

### 取り組みの柱

#### 1. 経済的な企業価値の創造

日産は収益性と企業価値を向上させるため、売上増大、徹底したコスト管理、持続的なフリーキャッシュフローの創出や、自動車事業での実質有利子負債におけるキャッシュポジションを改善するなどバランスシートの強化に取り組んでいます。一方、さらなる成長に向けて、重点分野および市場への戦略的な投資も継続しています。今後も適切な利益確保に努め、社会に対する価値創造を継続的に高めることを目指します。

#### 2. 迅速で透明性の高い情報開示

株主・投資家の皆さまは持続可能な社会をともに創造していくパートナーです。日産の事業活動を正しくご理解いただくため、IR(株主・投資家向け広報)活動においては迅速で透明性の高い情報開示を継続的に行うことを基本としています。さらに機関投資家や証券アナリストのみならず、個人投資家の皆さまにも的確な投資判断をしていただけるよう、情報提供の拡充に努めています。

### 活動方針

「日産パワー88」は、2016年度までに実行すべき、明解かつグローバルなビジョンと具体的な戦略を示した中期経営計画です。日産は企業価値を最大化するため、この計画で掲げられたそれぞれの戦略を着実に実行していきます。

グローバルなIR活動においては、一貫して迅速で透明性のある情報を開示することで、日産の企業活動を正しくご理解いただけるよう努めています。決算発表においては、四半期ごとに機関投資家への個別訪問や証券アナリストとの取材対応を行っているほか、証券会社主催のコンファレンスなどを通じて会社の状況を積極的にお伝えしています。また、株主・投資家の皆さまからの信頼をより強固なものとするため、投資家向けミーティングなどの場において、経営者層との直接対話の機会を増やすとともに、最高財務責任者(CFO)の厳格なコントロールのもと、公平で透明性のある情報開示に取り組んでいます。日産は、株主や投資家の皆さまが投資判断をされる際に有益となる情報を適時かつ公平に開示することにより、株式市場からの信頼と安定的な株主価値向上に役立つIR活動の充実に取り組んでいます。

### 経済的な企業価値の創出

#### 新中期経営計画「日産パワー88」

日産は2011年6月、新たな中期経営計画「日産パワー88」を発表しました。「パワー」とは、お客さまにとっての価値に焦点を当てた、ブランドパワーとセールスパワーの向上に向けた取り組みを指します。また「88」は、2016年度末までにグローバル市場占有率を8%に伸ばすと同時に、売上高営業利益率はできるかぎり早い段階で8%を達成し、その後も確実に維持していくことを意味しています。また、「日産パワー88」は6年間を対象期間にすることで、長期戦略のもと、商品・技術・地理的拡大のための投資を行い、2016年度以降の持続的成長を目指します。

例えば、持続可能なモビリティを推進する取り組みの一環として、ゼロ・エミッション戦略およびピュア・ドライブ戦略のもと、電気自動車(EV)や低燃費技術のラインアップを拡充します。そして、すべての人にモビリティを提供するため、エントリーセグメントと新興市場のニーズに応える新型乗用車・小型商用車を投入します。(関連ページ: 6~7ページ)

### Area Leaders' Messages

日産のCSR 重点8分野 オーナーメッセージ

**「日産パワー88」を達成し、利益ある成長を目指す**

経営企画本部 経営企画室  
室長

宮永 圭一郎



日産は2011年度、中期経営計画「日産パワー88」を発表しました。「日産パワー88」は、日産を利益ある成長へと導く指針です。私たちは、グローバル市場における成長を加速させ、革新的で魅力溢れる商品やサービスを、世界中の人々に提供したいと考えています。ハードルの高い経営目標に対し、「方針管理」の考え方と手法を取り入れることで、その達成を確実なものとし、持続可能なモビリティ社会の実現に向けて、世界をリードしていきます。

## 株主・投資家の皆さまへの広報(IR)活動

### 第112回株主総会

2011年6月29日、日産自動車(株)は1,005名の株主の皆さまにご出席いただき、「第112回定時株主総会」をパシフィコ横浜において開催しました。議決権数報告および監査報告の後、2010年度の事業報告を行い、引き続き本総会に出席された株主の方々との質疑応答が行われました。最後に、上程された3つの決議事項が審議され、すべて承認されました。

### 株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

日産はさまざまなIRイベントを通して、自主的な情報開示を実施しています。2011年10月に実施した先進技術説明会では、環境技術、安全技術についての紹介を行い、参加者の皆さまに2012年から投入される新世代エクストロニックCVTを搭載した車両に試乗いただきました。また東京モーターショー開催に合わせて行われた「東京モーターショー・インバスターズ・コンファレンス」では、志賀俊之COOが日産のゼロ・エミッション戦略について説明を行いました。12月に開催された「野村インベストメント・フォーラム2011」では、国内・海外機関投資家の皆さまに向けて、志賀COOが日産の新興国戦略と日本のモノづくりについてプレゼンテーションを行いました。

### IR活動で外部から高い評価

日産は、(社)日本証券アナリスト協会主催の第17回「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、自動車・同部品・タイヤ部門の優良企業1位に5年連続で選定されました。「ディスクロージャー優良企業選定」は、企業の情報開示向上を目的に、証券アナリストがアンケート形式で対象企業のIR活動を事業年度ごとに評価するものです。日産は、フェア・ディスクロージャーへの取り組み、コーポレートガバナンスや事業活動に関する自主的な情報開示、経営陣のIRへの積極的な取り組みなどが評価されました。

また日産は、日本IR協議会が選定する第16回「IR優良企業賞」を受賞しました。「IR優良企業賞」は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなど優れた成果を挙げた企業を表彰するもので、日産の受賞は前年に続いて2度目となります。日産はフェア・ディスクロージャーの姿勢に加え、経営層が参加するミーティングや説明会の定期的な開催、投資家ニーズを的確に把握する活動などが評価され、応募企業304社のうち受賞7社に選ばれました。